

## 平成19年度環境監視結果年報の概要

### 1 結果取りまとめの対象期間

平成19年4月から平成20年3月まで

### 2 環境監視の項目

#### (1) 空港島等の存在に係る項目

海水の流れ及び水質、底質、汀線、海域生物、鳥類並びに海浜植物

#### (2) 空港の供用に係る項目

一般環境大気質、騒音及び鳥類（ワシタカ類等渡り鳥）

### 3 評価の内容（総合評価）

#### (1) 空港島等の存在に係る環境監視結果

##### ア 環境基準値との比較

水質の項目のうち、化学的酸素要求量（COD）、全窒素（T-N）、全リン（T-P）について環境監視結果と環境基準値との比較をした結果、調査点 TS2、TS3、TS5 及び TS6 の COD、TS6 の T-N 以外は、環境基準値を上回っていた。これらの環境監視結果と愛知県が実施した周辺の公共用水域等水質調査結果とを比較した結果、ほぼ同様か若干低い傾向であった。

##### イ 過年度データとの比較

存在に係る全ての項目について、過年度データとの比較をした結果、環境監視結果は、次の場合を除いて、ほとんど変化がなかった。

- ・海水の流れについては、平成17年度～平成19年度の蒲池沖の表層の流向が平成12年度～平成16年度よりもやや西側に向かう傾向がみられたが、これは平成17年度の夏季調査から調査位置を若干移動したことによる可能性が考えられた。また、小鈴谷沖の流速が平成12年度～平成16年度よりもやや大きくなっていた。
- ・底質については、平成15年度以降、調査点 TS2 及び TS6 において COD の減少がみられていたが、平成17年度～平成18年度はほぼ横ばいで推移していた。平成19年度はやや増加していたが、平成14年度以前より低い値であった。
- ・海域生物のうち、藻場（アマモ場分布）については平成8年度以前よりも分布面積が拡大しているが、平成13年度以降は安定しており、自然変動の範囲内と考えられた。
- ・海浜植物のうち、常滑市新田町海岸におけるピロードテンツキの生育面積は平成17年度以後に変化があった。その原因は空港島等造成事業以外によるものと考えられた。

## (2) 空港の供用に係る環境監視結果

### ア 環境基準値等との比較

一般環境大気質については環境基準値や指針値と、航空機騒音については環境基準値と比較した結果、環境監視結果は、次の場合を除いて環境基準値または指針値以下であった。

- ・ 常時監視局である苅屋局において、浮遊粒子状物質（SPM）については環境基準を満たしておらず、光化学オキシダント（O<sub>x</sub>）についても環境基準値を上回っていた。これら一般環境大気質の監視結果を愛知県が実施した周辺の一般環境大気測定局における測定結果と比較した結果、ほぼ同様の傾向であった。

### イ 過年度データとの比較

供用に係る全ての項目について、過年度データとの比較をした結果、環境監視結果は、ほとんど変化がなかった。

## (3) まとめ

平成 19 年度の環境監視結果では、存在及び供用に伴う環境への影響はほとんど認められなかった。

(参考)

空港島及び対岸部の環境監視に関する検討委員会構成員

	氏 名	役 職 等
委員長	<small>いわた こういちろう</small> 岩田 好一朗	中部大学工学部都市建設工学科教授
委員	<small>おがさわら あきお</small> 小笠原 昭夫	名古屋学芸大学非常勤講師
委員	<small>おだ かつや</small> 小田 勝也	国土交通省国土技術政策総合研究所 沿岸海洋研究部長
委員	<small>きただ としひろ</small> 北田 敏廣	豊橋技術科学大学エコロジー工学系教授
委員	<small>くどう せいとく</small> 工藤 盛徳	東海大学名誉教授
委員	<small>よしひさ こういち</small> 吉久 光一	名城大学理工学部建築学科教授